

水陸稲早期後作飼料作物栽培について

讃井芳胤*・井手迫金一*

SANUI, Y. and ITESAKO, K. Studies on the Forage Crop as
Successive Plants for the Early-Sowing Cultivation
System of Paddy and Upland Rice.

1. 水陸稲早期栽培と前後作の現況

鹿児島県における水陸稲早期栽培は奨励第5年目を迎え、昭和35年度の作付実績は離島を除く本土だけで水稲7,146 ha、陸稲11,080 haで県政の重点施策として積局的な栽培普及が行われている。

跡地の利用実績については遺憾乍らこれまで適確な資料が得られず、関係市町村からの利用計画面積から実績の推定がなされているが、利用状況はおおよそ次のようである。即ち、水稲後作の利用率は昭和34年度の58%から翌35年度は78.8%に上昇しており、その内訳は飼肥作物の36%、水稲2期作33%、普通作(麦、ナタネ、そば、甘藷など)22%、そさい類8%、その他1%で、陸稲後作の利用率は110%に達しており、水田に比べ遙かに高いその内訳は普通作73%、飼肥作15%、そさい類11%、その他1%である。このように跡作物として飼肥作物が占める地位は水田、畑地とも極めて高く、水陸稲早期跡地の問題は本県においては畜産振興の基盤である自給飼料の生産の場と

して重要な意義をもつものと思われる。

2. 後作飼料作物の種類並びに作付状況

水稲早期あと飼料作物の昭和34年度作付実績は443 haで、このほか飼肥作物のレンゲが716 haである。飼料作物の主要なものは青刈エンバクの51.9%、エンバク、ベッチ混作34.8%が現在最も普及しており、次に家畜カブの8.7%でその他ベッチ、イタリアンライグラス、ルタバガなどがあげられるがこれらはまだ一部で試作の段階と思はれる。

陸稲早期あと飼料作物の作付実績は921 haで主なものは青刈エンバクの65.9%、エンバク、ベッチ混作17.7%でその他家畜カブ、クロバー、ベッチ、イタリアンライグラスなどがそれぞれ5%以下の割合で作付されており、水田と同よう青刈エンバク及びベッチの混作の普及が最も高く、次に家畜カブ、クロバー、イタリアンライグラスなどが次第に普及の段階にある飼料作物と思われる。

3. 水稲早期後作飼料作物栽培試験

本試験は昭和28年から鹿児島農試圃場(鹿児島市)

* 鹿児島県農業試験場

及び移転後 31 年から谷山圃場 (谷山市) において西南暖水田生産力増強に関する試験の一部として飼肥作物の種類並びに品種選定と栽培法について現在まで試験を行つているが、ここに掲げる成績は昭和 33~34 年県内の酪農地帯及び養豚地帯において水稲早期のあ

第 1 表 酪農地帯 (市来町) における水稲早期あと飼料作物導入試験 (昭和33年)

Table with columns: 作型, 作物名, 播種期, 収穫期, 10a当り生草収量, 養分収量 (DCP, TDN). Rows include 青刈えんばく, ベツチ混作, ルタバガ, 家畜カブ, レンゲ, 青刈蜜豆, 青刈えんばく.

備考: ルタバガ・家畜カブ収量の () 内は茎葉重を示す。

第 2 表 酪農地帯 (市来町) における水稲早期あと飼料作物導入試験 (昭和34年)

Table with columns: 作型, 作物名, 播種期, 収穫期, 10a当り生草収量, 養分収量 (DCP, TDN). Rows include 青刈えんばく, ベツチ混作, 家畜カブ, 青刈えんばく, 甘藷, ルタバガ, カウビー, ルタバガ.

備考: 家畜カブ・甘藷・ルタバガ収量の () 内は茎葉重を示す。

第 3 表 養豚地帯における水稲早期あと飼料作物栽培試験 (枕崎市)

Table with columns: 作物名, 播種期, 収穫期, 10a当り生草収量 (昭和33年, 昭和34年), 養分収量 (DCP, TDN). Rows include 馬鈴薯, ルタバガ, 家畜カブ, レンゲ, 青刈えんばく, ベツチ混作.

と作として現地試験を行つた結果を第 1~3 表で示すことにした。

4. 陸稲早期あと作飼料作物栽培試験

前作陸稲の作式を複条栽培にすればその畦間に後作飼料作物を比較的容易に間作できる第 4~5 表がその成績である。

第 4 表 早期陸稲あと夏播飼肥作物 (陸稲登熟期間作した場合)

Table with columns: 陸稲作式, 作物名, 昭和33年 (播種期, 収穫期, 10a当り生草重), 昭和34年 (播種期, 収穫期, 10a当り生草重). Rows include 複条 (とうもろこし, カウビー, 秋大豆), 単条 (とうもろこし, カウビー, 秋大豆).

備考: 1) 複条畦巾 90cm の 2 条寄畦, 単条畦巾 45cm 条播。 2) 品種とうもろこし (ホホワイトデント), カウビー (ボンベイ), 秋大豆 (箱被)。

第 5 表 早期陸稲あと甘藷収量成績

Table with columns: 品種名, 昭和33年 (播種期, 収穫期, 10a当り収量), 昭和34年 (播種期, 収穫期, 10a当り収量). Rows include 農林 9 号, ベニセンガン, フクワセ, 九州 27 号.

備考: 甘藷はつる先苗を用い、陸稲登熟後に栽植 10a 4,500本。

第 6 表 早期陸稲あとにおける播秋飼肥作物収量成績 (昭和34年)

Table with columns: 前作名, 作物名, 播種期, 収穫期, 生育, 10a当り生草収量. Rows include 青刈えんばく, ベツチ混作, 青刈蜜豆, 青刈レーブ, イタリアンライグラス, レッドクローバー, 青刈えんばく, ベツチ混作, ルタバガ, 大麦.

むすび

水陸稲早期後作としての飼料作物はすでに各県それぞれ適種の適定がなされ、その栽培は急速に普及を見つつある。今後、飼料生産を家畜と有機的に結びつけるため、地域別に家畜増殖計画とにらみ合せた計画的栽培が望しく、特に本県においては飼料作物の病虫害に対する問題の解明が必要である。